

## 安全を追求し続け、弛まぬ努力を積み重ねる

当社は、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故を極めて重く受け止め、福知山線列車事故のような重大な事故を決して発生させないことをJR西日本グループすべての思考、行動の礎とし、確固たる決意のもと安全性向上の取り組みを積み重ねてまいりました。

2023年度からは、安全性向上の具体的な計画である「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」のもと、「安全最優先の判断と行動」の実践とともに、「お客様を想い、ご期待にお応えする」ことを強く意識して安全性の向上に取り組むよう、安全に対する向きあい方を深め、組織風土として醸成していくことに、グループ全体で取り組んでいます。

そうした中、2023年度に「死亡に至る鉄道労災」を2件発生させ、ともに働く仲間のかげがえのない命を失ったことを重く受け止め、2024年度は、実態把握に基づいた安全対策を着実に実行してまいりました。また、計画に基づきハード・ソフト両面から安全対策を進め、目標に掲げる「お客様が死傷する列車事故」「死亡に至る鉄道労災」の抑え込みを図ることができました。

具体的には、ハード面では、駅ホームや踏切の安全対策、地震対策等を重点的に進めたほか、新製車両への更新や自然災害への対応等、様々な対策を進めました。ソフト面では、安全最優先の風土を醸成すべく、「現場の判断を最優先するマネジメントの確立」をめざして実践的な訓練等を積み重ね、また、組織全体で安全を確保する仕組みを充実させるために、「リスクアセスメントの質の向上」や「心理的に安全なチームづくり」などに重点的に取り組みました。

引き続き、目標の達成に向けて実行力の向上に努めるとともに、安全を支えるハード・ソフトの機能向上を図ってまいります。また、安全管理体制に対する第三者評価で改善が望まれると助言いただいた、事故や災害発生時など迅速な意思決定が必要となる非定常時においても互いを認め合い、率直に発言し合えるよう「心理的に安全なチームづくり」を推進し、安全性向上に努めてまいります。さらに、自然災害の激甚化や労働人口の減少など取り巻く環境が変化する中で、新しい技術の可能性を追求し、様々なパートナーとともに、安全性向上の取り組みをより強化していくとともに、将来にわたる鉄道の安全の実現に向けた取り組みを積み重ねてまいります。

現在、「福知山線列車事故 車両保存施設」の整備を進めており、2025年12月に完成する予定です。私たちにとって安全構築の原点である福知山線列車事故の事実や悲惨さ、いのちの大切さを心に刻む取り組みを一層進め、事故の反省と教訓を継承し続けてまいります。

私たちの安全の取り組みに終わりはありません。いかなる状況にあっても、安全性の向上は経営の最重要課題であり、「お客様を安全に目的地までご案内すること」は不変の使命です。このことを強く認識し、「お客様から安心、信頼していただける鉄道」を築き上げていくために、私自身、リーダーシップを発揮し、JR西日本グループ社員の力を結集して、弛まぬ努力を積み重ねてまいります。

お客様や地域、社会の皆様におかれましては、本報告書をご高覧いただき、ご意見やご助言をいただければ幸いです。

2025年9月  
代表取締役社長

倉坂 昇治

